

このほか、シラク大統領はさきの仏露首脳会談の内容を紹介。シラク大統領がブーチン大統領に対し、日露関係の改善がロシアにとって重要な利益になると指摘した際、「ブーチン大統領も、その点は強く認識しているようだった」と説明した。

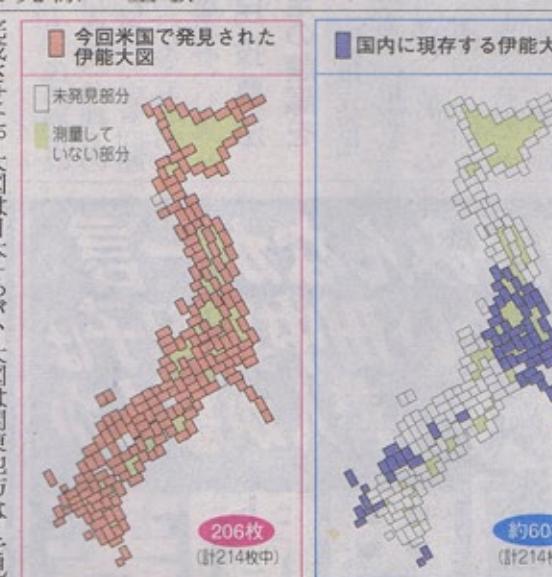
別れ  
まらず

一張して具体的な進展のないまま協議を終えた。次

写真週刊誌「FOCUS」に、戦友の臨終といつた感概をおぼえる。べつに遷いつきあいがあつたわけではないが、「敵ながらあつぱれ」といった時代の読み方が少なくなかつたからだ。▼むろん「のぞき趣味」や「スキャンダリズム」といった批判や非難はあつた。しかし同誌に掲載された数々のスクープ写真は、確かに一つの時代をつくつた。昭和五十年代終わりから十年余りである。表紙も編集も中双方は頗るかぬけていて、写真に添えられた文章も小憎らしくしゃれていた。

▼感概をおぼえたのは、休刊を発表した新潮社松田宏取締役の「残念なことにスクープをして読者がついてこなくなった。スクープは部数に関係なかった」という説明に対してである。そうなのだが、新聞でも同じことがいえる。懸念にスクープをしても読者が増えもない状況はたまらなくさびしい。▼「ビジュアル」時代だという。

ビジュアルとは「視覚的」とか、「目に見える」といった意。「ビジュアル・キャプチャー」とは、「視覚的効果で読者や消費者を獲得する」と、「現代用語の基礎知識」らしい。「FOCUS」



者・測量家。1745年、上総国(千葉県)に生まれ、家業の酒造業などを営んでいたが、50歳をすぎて幕府天文方に入学。1800年に北海道から九州まで全国の測量を始め、幕府の援助を受けた測量隊は16年間に4万4千ヶ所を踏破した。

伊能は1818年に73歳で死去するが、地図作製を引き継いだ高橋景保が1821年に「大日本沿海輿地全図」(伊能図)として完成した。

幕府は地図を秘蔵していたが、幕末になつてドイツ人医師のシーボルトが欧米に紹介。測量技術が優れていたため明治維新後も利用され、明治政府が発行した全国地図の基本図になつた。

るが、大陸は関東地方など約六十枚の写しが国内にあるだけだった。

発見された写しは一枚  
が畳一枚分の大きさで、

ナリーワーフの就業者

る。當時を知る資料として貴重」と話している。

写しには「第一軍管」「第三軍管」など軍の管轄を示す記載もあり、渡辺代表理事は「日本最初の国土地図を作った陸軍の測量機関が明治十年前後に、伊能家にあった副本を写したもの」と分析。これが何らかのルートで米国に渡ったとみられた。

（一八）大団をくそとみら（人文）西川大団（大団）的に大団な大団と比較的と

米国議会図書館地図部による、「明治三十年（一九七七年）以降には大図を購入した記録はなく、それ以前に入手したとみられる」という。西川治東大名誉教授（人文地理学）は「学問的に大発見。非常に詳細な大図が見つかり、二年前の日本の様子を現在と比較できることは画期的」と評価している。